

なわて民報

No. 1941
2016.5.20

〔発行〕
日本共産党
四條畷市委員会
中野本町4-24
TEL/FAX
072-879-5016

四條畷市議会議員
岸田あつこ
清滝29-1 A-201
TEL/FAX
072-803-0303

かんばら泰晴
北出町27-2
TEL/FAX
072-865-2551
072-865-4610

5・3平和
憲法集会

平和憲法守れ 大阪 扇町公園に2万人 戦争法廃止を！



びかけた集会は、扇町公園（大阪市北区）を人の波で埋めつくしました。

最終的に2万人が参加したこの集会は、デモ行進に出発する頃になっても、参加者が途切れませんでした。

今年の2月に成立した、5野党の戦争法廃止・集団的自衛権行使容認の閣議決定廃止など5項目の合意に基づいて参議院選挙の選挙協力が進むなか、日本共産党のわたなべ結氏を始め、民進党・社民党・生活の党などの代表がそろって挨拶。

社民党の服部良一氏は、「大阪選挙区4議席のうち、民進党現職とわたなべ結氏で2議席を占めて欲しい」とエールを送りました。

市民団体が多彩な憲法守れの声
安倍与党を参院少数派に

市民団体からも、若者の団体、シールズ関西・安保関連法に反対するママの会・大学教員有志の会・高校生有志などの代表が演壇に立ち、幅広く多彩な『憲法守れ、戦争法廃止』の声が寄せられました。シールズ関西

の学生は、「戦争法が持ち出されるまで憲法には関心がなかったが、憲法が危ないと分かり運動に参加した。憲法を最も守るべき安倍首相が憲法を守らず、憲法を変えような

どとは許されない」。ママの会代表は「この2月に子どもが産まれた。ママたちも育児で大変だが、大切な子どもたちを戦場に送ることはできない。」と訴えました。

また学者の会からは、「安保法制反対の声があげられた百人余りの学者の呼びかけに、今は、1万人を超す学者、研究者の賛同署名が寄せられている」と報告され、会場がどよめきました。

四條畷でも「2000万人統一署名」がこの日まで、2千筆超が集まっています。

「参院選で自民・公明の安倍政権与党を少数に追い込む」との一致点で、それぞれの運動が大合流する集会となりました。

や市畷四條 へ本熊も議会 付送金援義

5月3日の憲法記念日、『憲法壊すな・戦争法廃止へ』と銘打ち、『総がかり行動実行委員会』が呼

（人、人で一杯の）
3日の憲法集会

熊本地震から一ヶ月以上が経っていますが、いまだ余震が続く、被災地は苦難がつづいています。

四條畷市内でも様々な団体が募金活動を行い、日本共産党四條畷市委員会も駅頭で約8万円の募金を集め、被災地へお届けしたことは4月29日付けの「なわて民報」でお伝えしました。

そんな中、四條畷市議会も5月2日、熊本地震の義

援金を九州市議会議長会の災害義援金口座へ10万円送付し、四條畷市は4月28日に200万円を日本赤十字社に送付しました。

ふるさと納税 の受付も開始

四條畷市は6月30日まで、市役所や市民総合センターなど市内8カ所の公共

施設に募金箱を設置して、義援金を受け付けています。また5月16日からは熊本県・大分県への災害支援寄付（ふるさと納税）の受付を開始しました。

ふるさと納税を受けた自治体は事務や経費の負担があるため、四條畷市で災害支援寄付（ふるさと納税）を受け、事務を代行するものです。詳しくは岸田議員までお問合せ下さい。

議会傍聴記

前市会議員 神原 泰晴氏

四條畷初，住民による条例制定請求を審議する臨時議会を傍聴しました。

3人の署名代表者による意見陳述などの点は画期的ですが、岸田あつこ議員と保守系議員の2人以外、『校区住民投票』の意味を理解していないと思われる議論となっていました。

《市長・教育長は条例に反対》

傍聴者への配布文書に市長の反対理由が書かれていました。市長は反対理由として「説明と議論は十分に尽くした」、「四條畷全体の将来を見越して統廃合は必要」などとしており、説明・論議が不十分で、四條畷の将来が不安だからこそ4千を超す署名が集まったことを理解していないようでした。

また、「統廃合の校区だけで投票は不公平」との論も的外れです。学校がなくなる校区の住人が、そのことの意味を表明できないことの方が権利侵害であり、不公平であるとの認識が全くないのには驚きました。教育長も同様なことを言っていました。

《議員の反対理由にも驚き》

議員の反対理由も市側と同じようなものですが、ある議員が「東小は土砂崩れで災害を受ける恐れがある」から反対と述べていたのも理解不能です。

住民投票は、上記のリスクも含めて住民が判断するのであって、住民投票条例に反対する理由にはなりません。東小をなくしたからといって土砂崩れの危険がなくなるわけではなく、行政の住民に対する責任放棄につながるものです。

こんなかみ合わない議論ののち、継続審議を求める2議員の異議をよそに、議会は条例否決を決めてしまいました。

《統廃合強行は将来に禍根を残す》

四條畷全体のことを考えれば、2度にわたって入札が不調に終わり、大幅に手直ししなければならぬ杜撰な計画は直ちに中止し、この4月から畷中・西中に進んだ子どもたちの処遇をどうするかを、検討することこそ必要です。

四條畷の将来を考えれば、身の丈に余る事業費で借金財政に陥る恐れがあります。無理な統廃合でなく、無駄遣いをやめ住民の意思が尊重される市政に舵をきるべきです。



臨時議会の感想

60代女性(田原台在住)

市長はふんぞり返り、これまでと同じ主張を述べるだけ。そして議員の質問には、後方に控える職員に手で合図して答えさせる。教育長は「心外だ」と言い、心なく自分の今までしてきたことを長々と繰り返すのみ。

「自分は本当に住民の気持ちに寄り添って、丁寧にことを進めてきたのだろうか？」と問うことが一度もないのだろう。ただ市長の意向に沿うようにことを進めるのが自分の仕事と思っているようだ。これだから教育委員会の本来の意義が薄れていくのだろう。

議員は各会派の代表者が「住民への説明が不十分」と指摘しながら、条例制定には反対する。こんな議員を選んだのは誰だ・・・？と腹が立った。

岸田・森本議員はがんばってくれた。



岸田議員も元気に参加

くつきりと晴れわたった今年のメーデー。8千人が参加した大阪市北区の扇町公園には、戦争

好天、快適なメーデー

5月1日

法廃止、消費税増税、TPP反対などのプラカードやのぼりを持った人が続々集まりました。中央の舞台からは、熊本地震支援や野党共闘を進める呼びかけなどが提起されました。わたなべ結氏や大門みきし、たつみコタロー参院議員と共に壇上で紹介された宮本たけし衆院議員が「安倍内閣を打倒し、何としても戦争法廃止の国民連合政府をつくりあげましょう」などと訴えました。岸田あつこ議員も元気に参加。集会後、四條畷の参加者たちと共に、京阪天満橋までデモ行進しました。